

# 中リー・光ジュニア通信

第3号

(デイキャンプ)



発行：中学生リーダー養成講座・光ジュニアクラブ事務局

令和3年11月24日（水）発行

## キャンプファイヤーで盛り上がりが最高潮に！！

周防の森ロッジにおいて、中学生26名、高校生3名が参加し、デイキャンプを行いました。最初に桑原企画委員と仲山企画委員による、「危険予知トレーニング」の講座が実施され、日常生活には危険な要素がたくさんあることを学びました。それらを予知し、回避できるようになると、さらに充実した生活が送れるようになると思います。次に、本会のOBでもあります、熊谷興行株式会社代表取締役の熊谷<sup>くまがい</sup>朝和<sup>ともかず</sup>さんにフードバンクやSDGsについて教えていただきました。中高生も授業において、SDGsについて「国連で定めた2030年の17の持続可能な開発目標」と学んでいますが、熊谷さんのフードバンクについての具体的な取り組みを、ご自身の中学生時代の経験を交えた話を聞くことで、より知識を深めることができました。午後からは、和久企画委員によるAFPY研修（集団作り）を行い、実施後は会員同士の会話も増え、キャンプファイヤーで盛り上がりながらいよいよ1日が終わりました。多くの方が研修に関わって下さったおかげで、学びの多い1日となりました。

（左の写真は熊谷さんの講演の様子）以下は感想

○まだ食べられるものが大量に捨てられていることが分かった。半額のものや消費期限の近いものを買うこと、フードバンクに寄付することなど、私たちにできることがあることが分かりました。

○フードバンクは、「もったいない」から「ありがとう」へとつなげる仕組みであることを知り、私もフードバンクのポストに食品を入れてみたいと思いました。



（左上の写真は危険予知トレーニングの様子、右上の写真は火おこしの様子）以下は感想

○いつもはガスコンロを使って調理をしているのですが、ガスがない状態で火を点けることに大変苦労しました。その分、防災食をおいしく感じる事ができました。





## デイキャンプの振り返り

(左上と右上の写真は、AFPYによる絆づくりの様子、左下と右下はキャンプファイヤーの様子)

○熊谷さんの話で、日本で1年間に約600万トンもの食べられるものが捨てられていると聞いて、大変驚きました。

○フードバンクやSDGsのことについて、深く学ぶことができて良かったです。世界には、貧困状態にある子どもがたくさんいることを思いながら、食事をするときに残さず食べようと思いました。

○AFPYでは、全員が輪をくぐる時間を計る活動があり、最初は26秒でちょっと残念な結果だったけど、全員で案を出し合って19秒に縮めることができたので良かったです。

○キャンプファイヤーがとても楽しかったです。みんなで見た、あのきれいな光は、多分これからも忘れることのできない良い思い出になりました。

○キャンプファイヤーでは、危険予知トレーニングやAFPYで習ったことを意識しながら、みんなで楽しく活動できました。火がとても強い時があり、火花もたくさん散って、とても綺麗でした。

○今回の活動は、自分から他校の人に積極的に話しかけることができたので良かったです。また、高校生リーダーのみなさんが分かりやすく、楽しくレクリエーションを教えて下さったので、とても楽しい活動になりました。

○今日学んだことは、日常生活にもとても役立つので、しっかり学べて良かったです。